ＢＣＡＯ関西支部　第28回支部意見交換会　議事録

１　概要

（１）　開催日：2009年1月21日（水）17：00～19：00
（２）　場所：　ＴＩＳ株式会社　１９Ｆセミナールーム
（３）　今回の座長役：西濱（西濱防災ネット技術事務所）
（４）　議事録作成者：安藤（ＴＩＳ）
（５）　出席者：２４名　角（竹中工務店）、小川（アイアイジェイテクノロジー）、日下（住友電気工業）、萩原（大林組）、前田（富士火災海上火災）、安藤（ＴＩＳ）、加瀬（大阪科学技術センター）、川口（船井電機）、廣本（神戸大学）、田中（グリコ栄養食品）、西濱（西濱防災ネット）、藤村（竹中工務店）、藤本（竹中工務店）、柳父（大阪ガス）、大辻(日本公文教育研究会)、大野（アビームコンサルティング）、佐原（鈴与）、杉原（大阪市）、野原（京セラ）、守谷（神戸市消防局）、速水（大阪地下街）、石井(日本工営)、神部（富士通エフサス）、荒二井(日本気象)　（順不同・敬称略）
（６）　議題
　　「ＤＲＩＩセミナー紹介」　アイアイジェイテクノロジー　小川さん
　　「第９回　比較防災学ワークショップ」に参加した感想　　参加者より一言

２．議事

■アイアイジェイテクノロジーの小川さんより「ＤＲＩＩセミナー紹介」。
　当日の発表内容は、小川さんのメールを参照ください。

以下は皆さんからの質疑応答（Ｑは皆様からの質問、Ａは小川さんからの回答）
（Ｑ）最終テストは日本語で受験できるようになるが、中国語とか他の言語対応は？
（Ａ）不明である。

（Ｑ）テキスト中「脅威」のところで、人的脅威とあったが、どんなモノを想定しているのか？
（Ａ）＜英語のテキストを見ながら＞以下のモノが例として書かれている。
　・火事　・水害　・爆発　・公害　・汚染　・停電　・テロ　・暴動　・さぼり
　・通信線断　・公共物破壊　・窃盗　・設備不良　・契約不履行　など

（Ｑ）「脅威」は「人的脅威」と「自然脅威」に分かれていたが、想定は特に縛られなくてよいか？
（Ａ）特に縛られる必要はなく、脅威が脆弱性をついた結果発生したリスクに対して考える。但し、対応は想定脅威ごとに異なる場合もあるのでドキュメント体系は各企業毎に柔軟に考える必要がある。

（Ｑ）資格を取得することによって実施できることは？
（Ａ）特にない。米国では就職に有利かもしれない。

（Ｑ）文書管理のソフトについて教えてください。
（Ａ）ソフトはたくさんある。参照⇒　www.drj.com

（Ｑ）脅威の対策の中で、米国の場合、地域に対する貢献はどのように位置づけられているか？
（Ａ）まずは自分を守ることが最重要視され、レピュテーショナルリスクを恐れるがゆえに地域があるという考え方に小川には感じられた。

（Ｑ）米国でのＢＣＰの策定率はどれくらいか？
（Ａ）ほぼすべての大企業は策定しているようである。中小企業はまだまだである。

■「第９回　比較防災学ワークショップ」に参加した感想
　以下、発表いただいた方々の意見を掲載

【廣本さん（神戸大学）】
１月１７日前後にBCPに関して複数のシンポジウムが開催された。
関西でもBCPが注目されている状況だと思うが、取り組みは始まったばかりという内容が多い。
また、新型インフルエンザ訓練については、初期にどのように対応するかも重要だが、
終息期に事業をいかに再開するのかを改めて検討しておく必要があると感じた。

【柳父さん（大阪ガス）】
比較防災学ワークショップのパネルディスカッションのみ聴講しました。
ばねの復元力（レジリエンス）を復興に当てはめ話を展開されていました。
阪神淡路やカトリーナで街が元に戻らない点に焦点を当てていて、
どうも塑性域に入ったばねの復元力になぞらえているようでした。
目標復旧レベルが最終的には100%という考え方とは異なる点に視点の違いがあると強調していました。

【速水さん（大阪地下街)】
15日　災害対策セミナー in 神戸
　午前：地域防災シンポジウム
　　基調講演「減災の知恵の共有」～風水害を変える地球温暖化～　河田先生
　午後：新型ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ･ﾊﾟﾝﾃﾞﾐｯｸｼﾐｭﾚｰｼｮﾝ訓練
　　主催：危機管理対策機構

16日　第9回比較防災学ワークショップ
　　基調講演：　２題
　　発表：先進事例を通して考える「リジリエンス」と「事業継続」
　　１）水道事業者の事業継続
　　２）大手ゼネコンにとっての事業継続
　　３）コンサルタントからみた事業継続計画策定の実態
　　パネルディスカッション：「リジリエンス」をどうとらえるか
以上のうち、１）水道事業者の事業継続　について、大阪市水道局の取組について勉強会で紹介。
- 昨年来、災害対策の一環で、京都大学防災研と連携しながら、図上訓練などを進めているが、その一環で、今年度は事業継続を念頭に共同で取組んでいる。
- 職員によるワークショップで、業務分析等を行っている点が特徴。1月29日には訓練予定。
- 今後、ブラッシュアップしながら、今年度BCPを策定する予定。

【西濱さん（西濱防災ネット技術)】
1/14日；3大学連携シンポジュウム（大阪国際会議場）に参加.
- 自助、共助、公助に加え“産助”が提案され、企業は継続のみならず社会貢献を行うよう提言あり。
- シャープが堺に建設する液晶工場は、ガラス製造、物流、製品組み立て工場などとの企業連携で防災体制を行う。

1/15日：新型インフルエンザ・パンデミックシミュレーション訓練（神戸）に参加
- 5～7名がグループを作り机上訓練をしたが、訓練後の各グループの感想には、
  1）事前準備が必要（BCP、新型インフルエンザの知識など)、2）正しい情報の収集と共有、3）備蓄などの発言があった。

1/16日：比較防災学ワークショップ（神戸）
- BCP先進事例として3者から発表があり、河田教授をデモレータとしたパネルディスカッションがあった。
- 企業は自社の継続だけでなく、社会全体を総合的に見る必要がある。（リジリエンス）

【田中さん（グリコ栄養食品)】
神戸防災セミナー 新型インフルエンザ シミュレーション訓練に出席しました。
参加者がグループに分かれて頭上訓練を行なったが,最初その進め方に関する要領が飲み込めず慣れるまでに時間がかかった。次回体験するときはうまく入っていけると思う。

東海地震速報対応においても情報解除の判断が迷わせる部分だが､新型インフルエンザにおいても終息判断をどうとらえるか、企業の判断と社会的な動きの整合が課題であった。

主な社会機能維持者として、食品メーカーの社会的責任を考えるとき、操業の維持と安全対策（感染拡大の防止）が重要である。社会的機能が麻痺するなかで、サプライチェーンの動向、行政サービス低下、 社員の出勤意欲などを考慮すると、企業単独での操業レベル（休止を含めて）の判断はかなりの条件付けがいると考えた。

小麦、米、牛豚肉・野菜などの食生活必需品と共に、加工食品類の位置づけは安全生産、安全包装などを考えても存在意義が高いと考えた。

何れにしても正しい情報入手と伝達（内外）、的確な判断・行動が重要な鍵となると考えた。

以上